

『韓国語教育研究』(第8号) 別刷

ISSN 2186-2044

【研究論文】

韓国語文章末の感情イントネーションの一考察
—視覚と聴覚学習の比較—

崔 壯源

日本韓国語教育学会

2018年9月

韓国語文章末の感情イントネーションの一考察 —視覚と聴覚学習の比較—

崔 壯源¹

本研究は、米国人韓国語学習者（以下、英語圏学習者）と日本人韓国語学習者を対象にピッチ曲線の視覚資料とモデル音声の聴覚資料を用いての文末イントネーションを練習した結果について実験調査した。その結果、中立、驚き、疑い、落胆、嬉しいといった5つの感情表現の枠組みから、驚きと嬉しさの気持ちの表現を「喜び」という項目にまとめ、疑いと落胆の気持ちの表現を「失望」という項目にまとめる教育、指導に扱う枠組みの単純化を主張し、3つの感情表現の枠組みでの分析を行った。その結果、以下の2点が分かった。一つ目は、中立と喜びの意図を持つ発話は、他の感情への判断とはっきり区別される結果が得られた。二つ目は、失望の意図を持つ発話は、視覚資料と聴覚資料を使った学習者群共に中立と喜びと判断される例が20%弱くらい根強く残っており、その一致率が59.1%～72.8%の範囲で現れ、他の感情表現より誤解が生じる可能性が高いことが分かった。

1. はじめに

本稿では、韓国語学習者の感情・態度を表現する時の文末イントネーションにより、意図していない誤解が発生しないように、感情を込めた文末イントネーションの生成のための音声練習方法の効果を調査した。この音声練習にはピッチ曲線を基本とする視覚資料とモデル音声を使った聴覚資料を使った。本研究で扱っている感情表現は、中立・驚き・疑い・落胆・嬉しさの5つの感情を対象にした。

伝統的に音声指導の方法には聴覚的資料の提供が一般化している。ここで日本語音声教育関連の研究分野で実施した「東京語アクセント聞き取りテスト（平田他、1997）」という縦断調査結果を参考としたい。一つ一つの語句について決まっている高低の配置（金田一、1967）として定義される日本語の高低アクセントを来日直後は52%から10か月後には78%にまで伸びたが、1年経ってもピッチの下がり目

¹ 本研究は、科研費【基盤研究C:15K02722】の助成を受けたものである。

を知覚できない学習者もいるとしている。このように音声指導は、学習者のバラつきが激しい分野でもあり、1年経っても学習者の聴覚的知覚が出来ない学習者のためにでも別の資料の提供が必要であろう。その代表的なものが音声を視覚化した資料と考える。日本語のアクセント辞典などに線で高低の位置を示している資料のようなものである。

本研究では、韓国語の文末イントネーションを視覚化した資料とモデル音声の聴覚資料をもちいて、学習者が自由に練習し、その音声を収録して、韓国語母語話者に発話者の意図を評定してもらった聴覚実験を行った。

2. 先行研究と問題の所在

この研究に至るまでの先行研究に関しては、崔(2016、2017a、2017b)とかなり重複するので、ここでは感情別文末イントネーションの発話を韓国人母語話者が聴覚判断した結果だけを取り上げることにする。

本研究を行う前に、筆者は韓国語母語話者²の33名が発話した感情別発話の合計165個の音声を感情別に発話した内容を別のグループの韓国語母語話者30名が聴覚的判断を行った結果4,950個の回答を調査・分析した(崔、2016)。この調査では、聴覚評定結果により、上位群と中位群の発話を音響分析し、その違いを明らかにした。次に、アメリカの大学で韓国語を学習する20名³が発話した100個の音声×平叙文・疑問文の2種類を発話してもらい、韓国語母語話者47名が聴覚的判断を行った結果9,400個の回答を調査・分析した(崔、2017a)。最後に、日本の大学で韓国語を学習している大学生20名⁴が発話した100個の音声を韓国語母語話者40名が聴覚的判断を行った結果4,000個の回答を調査・分析した(崔、2017b)。

² ソウル方言話者の大学生33名(男性6名、女性27名、平均年齢21.9歳)でソウル・京畿道で言語形成期(小学校から中学校までの期間)を過ごした人を対象とした。

³ アメリカの University of Colorado Boulder で韓国語を学習している学生を対象とした。アメリカでは標準語話者の概念で被験者を選ぶことが困難な点、それから学習者の場合、標準語を使用する人に限定した教育はあり得ないことから、広く英語母語話者を対象とした。

⁴ 男性3名、女性17名、平均年齢19.8歳である。学習者の場合、標準語を使用する人に限定した教育はあり得ないことから、学習者には言語形成期の制限は設けていない。広く日本語母語話者を対象とした。

まず、上記の3つの調査・分析の結果を紹介する前に、調査方法を言及しておく。まず、録音資料として使ったのは、「A1: ミナさんも来ますか。 B: はい。 ミナさんも来ます。 A2: あ、そうですか。」の韓国語会話文を用いて、A2の答えに当たる「아 그래요」がターゲット文である。ここに中立に関する提示は、「納得とも表現できる。 ミナさんが来るという情報は分かったという気持ちで、“あ、そうなんだ”程度の表現である。」と説明した。また、驚きは、「ミナさんが来るという情報を聞き、“意外と感じて驚いた時”の表現である。」とし、疑いは、「ミナさんが来ると言ってはいらぬものの、今までのミナさんの態度から判断して、“来ないだろうにという疑いを抱いている時”の表現である。」とした。落胆は、「ミナさんは来ないでほしかったのに来るという場面で、“自分の願望と違ってがっかりした時”の表現である。」とし、最後に、嬉しさに関しては、「ミナさんも来てほしいと思っていた時の気持ちであり、“自分の願望どおりになった時の嬉しさ”の表現である。」と説明した。この説明内容は、発話者である韓国語母語話者、英語圏での学習者、日本人学習者と聴覚的判断をする韓国語母語話者にも同一の内容を提供した。

韓国語母語話者の発話に対する聴覚的判断の結果では、全体一致率が38.2%であった。感情別の結果をみると、中立が41.7%、驚きが40.0%、疑いが24.5%、落胆が52.8%で最も高い一致率を見せ、嬉しさは35.3%の結果であった(崔、2016)。後ほど、4. 結果のところでは日本人学習者と英語圏の学習者の発話した感情表現に対する韓国語母語話者の聴覚的判断の結果を示すが、英語圏学習者の発話の全体一致度は34.2%、日本人学習者の発話の全体一致度は37.4%であり、韓国語母語話者の発話、また学習者の感情表現の発話意図と韓国語母語話者の一致度が非常に低い結果であった。例えば、学習者側の感情表現の結果だけが韓国語母語話者の聴覚的判断に難しい結果であれば、文末表現の指導の必要性が主張できる。しかし、今回の結果では、韓国語母語話者の感情表現の発話の一致度も非常に低い結果であった。このような結果になった理由は実験計画当初から予想されていたいくつかの理由もある。つまり、感情別状況を説明した上での発話を試みる音声収録の実験手順により、発話者は指示された感情表現を充実に表現しようとし、ある意味での演技が必要となる。その演技力の結果によって本研究の結果も左右されかねない限界性を含んでいた。それから、もう一つの理由としては、中立、驚き、疑い、落胆、嬉しさという感情表現自体は会話や人々のコミュニケーションには存在するものの、あ

る発話を聞いて先述の5つの感情を正確に当てるテストの難易度が極めて難しいテストであることが分かった。さらに、本研究の目的である韓国語の音声指導のための視覚資料を確保するために行った母語話者の聴覚的判断結果と音響分析の結果から次のことが分かった。驚きと嬉しいという感情は、音響分析からのピッチ曲線の現れ方が非常に似ており、母語話者の聴覚的判断にも影響を及ぼしていることが分かった。

3.1の図1から図5をご参照されたい。後ほど3.1で崔(2016)の結果を示すが、疑いの感情で発話した韓国語母語話者の発話の中で、母語話者の聴覚的判断との一致度が最も高かった音声の一致度は63.3%であった。他の感情表現の一致度と比べてとても低い。一致度が63.3%だった最上位の音声の文末イントネーションは、驚き、嬉しさのピッチパターンと似たような急激な文末上昇調で現れている反面、最上位に次ぐ52.1%の一致度の2番目の音声は落胆のピッチパターンのように緩やかな上昇調しか現れなく、文末に急激な上昇調と緩やかな上昇調のピッチパターンが混在して現れた。この結果、疑いの発話意図を持つ韓国語母語話者の発話は、中立と判断されたのが27.6%、驚きと判断されたのが17.0%、疑いが24.6%、落胆が25.1%、嬉しさが5.8%の結果となり、最も発話・聴覚的判断の難易度が高い感情表現であることが分かった。このような結果を受け、学習者への指導を目標とするためには、指導のための感情項目を単純化する必要性があった。

そこで、本稿では、感情別文末イントネーションの練習の結果を分析する段階では、感情表現を中立、失望、喜びの三つに再設定し、分析を試みることにした。失望には、疑いと落胆の回答が合算され、喜びには驚きと嬉しさと答えた回答の結果が合算されることになる。

3. 調査方法

崔(2016)では、韓国語母語話者の33名が発話した感情別発話の合計165個の音声を別のグループの韓国語母語話者30名に聴覚的判断をさせた結果から、最も一致度が高い発話を選定し、感情別上位群の音声を特定した。中立の音声からは73.3%の一致度を見せた発話を、驚きの音声も同様に80.0%、疑いでは63.3%、落胆では100%、嬉しい感情を表現した音声からは100%の一致度が得られた音声か

らのデータを学習者の練習資料とした。この音声からピッチ曲線を抽出したものを視覚資料とし、その音声を聴覚資料とした。先述した内容をもう一回断っておくが、実験は先行調査方法との均衡性を確保するため、5つの感情通りに実施し、分析の段階で3つの感情パターンに再分析する段階を追加した。

3.1 発話資料及び音声提供者及び韓国語母語話者の聴覚判断者

発話資料は以下の図1から図5の通りである。視覚資料で練習するグループの学習者には以下の資料を与えた。聴覚資料で練習するグループの学習者には、以下の図を抽出した韓国語母語話者の音声を与えた。それぞれ、練習時間は15分とし、両グループに与えた視覚資料と聴覚資料をあくまでも参考のものとし、5つの感情をよく考えて練習するようにと指示した。



図 1 韓国語母語話者の中立の上位音声

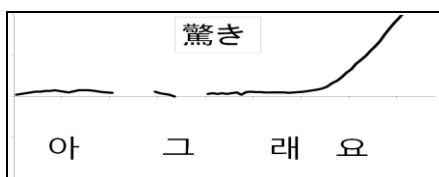


図 2 韓国語母語話者の驚きの上位音声

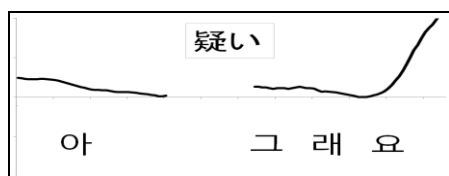


図 3 韓国語母語話者の疑いの上位音声

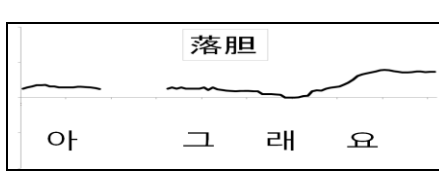


図 4 韓国語母語話者の落胆の上位音声



図 5 韓国語母語話者の嬉しさの上位音声

学習者は英語母語話者と日本語母語話者の学習者 20 名ずつ、計 40 名の学習者から得られた 200 個の音声ファイルを聴覚的判断に用いた。聴覚的判断は 80 名の韓国語母語話者に依頼した。80 名のデータ中、6 名の回答データにパターン化した回答記述をしており、分析対象から除外し、74 名分から得られた 15,200 個の回答を分析対象とした。

1. 結果

本稿では、崔(2016) で実施した韓国語母語話者の 33 名が発話した感情別発話中別のグループの韓国語母語話者 30 名が聴覚判定した結果、最も一致度が高い発話を選定した。中立の音声からは 73.3% の一致度を見せた発話を、驚きの音声は 80.0%、疑いでは 63.3%、落胆では 100%、嬉しい感情を表現した音声からは 100% の一致度が得られた音声データから学習者が練習できる視覚資料と聴覚資料を用意した。この資料を使い、今までの実験の手順通りに 5 つの感情表現からの結果を表 1 と表 2 に示した。

表 1 米国韓国語学習者 (EN) と日本人学習者(JP)の練習資料別一致率

	視覚・聴覚	一致率(%)
EN	視覚	52.4
EN	聴覚	57.6
JP	視覚	53.5
JP	聴覚	52.2
EN+JP	視覚	52.9
EN+JP	聴覚	54.9

視覚・聴覚資料を用いずに実験を実施した韓国語母語話者の発話に対する聴覚的判断からの全体一致率が 38.2%(崔、2016)、日本人学習者の発話の全体一致度は 37.4% 崔、(2017a)、米国学習者の全体一致度は 34.2%(崔、2017b) であった結果と比べると全体的に約 15% 弱くらいの成績の伸びが観察された。この結果を各 5 つの感情別発話の結果を表 2 から詳しく見てみると次の 3 点の特徴が見えてくる。

一つ目は、中立の発話パターンは、10%台くらいで疑い、落胆と判断される場合もあるが、概ね中立の発話は視覚・聴覚資料を使つての練習をした時、他の感情との判断に差がつく。

二つ目は、驚きと嬉しい気持ちの発話では、嬉しさの気持ちで発話された音声の多くが驚きと判断される例が多い。これはピッチ曲線上でも確認出来たようにピッチの現れ方が非常に類似している点に起因するものと考えられる。

三つ目は、疑いと落胆の場合、感情別判断あるいは、発話において最も難しい発話であることが分かった。発話が難しいのか母語話者の判断が難しいのかは今回の実験では明らかになることが出来なかったが、疑いと落胆の発話及び判断結果では相互への結果に衝突が起きていることが確認でき、中立への判断結果も多く現れていることが分かった。

このような結果から、2 先行研究と問題の所在で韓国語音声教育、指導のためには感情表現の枠を単純化する必要性があることを主張した。

表 2 米国韓国語学習者 (EN) と日本人学習者(JP)の 5 つの感情別一致率

	視覚・聴覚	感情	中立	驚き	疑い	落胆	嬉しい	合計
EN+JP	視覚	中立	69.9	3.1	10.2	13.4	3.3	100.0
		驚き	6.8	61.1	7.2	4.1	20.8	100.0
		疑い	14.7	10.5	40.9	19.6	14.3	100.0
		落胆	24.6	2.4	16.1	55.3	1.7	100.0
		嬉しい	7.4	42.4	7.4	5.3	37.4	100.0
	聴覚	中立	69.8	4.3	10.2	11.4	4.3	100.0
		驚き	4.9	64.9	5.1	2.4	22.6	100.0
		疑い	28.4	14.3	34.7	17.8	4.8	100.0
		落胆	14.7	6.7	23.5	51.1	4.0	100.0
		嬉しい	8.4	26.1	8.2	3.4	53.9	100.0

そこで、5つの感情表現から声の高低のパターンが似ている感情表現をまとめ3つの枠組みに変えて分析しなおした結果を表3にまとめた。表3には、驚きと嬉しさの表現を「喜び」という項目にまとめ、疑いと落胆の気持ちの表現を「失望」という項目にまとめて再分析した結果である。

表 3 米国韓国語学習者 (EN) と日本人学習者(JP)の3つの感情別一致率

			中立	喜び	失望	合計
EN	視覚	中立	70.8	6.4	22.8	100.0
		喜び	6.0	84.9	9.1	100.0
		失望	18.6	22.3	59.1	100.0
	聴覚	中立	68.0	5.1	26.9	100.0
		喜び	5.7	85.4	8.9	100.0
		失望	22.6	11.1	66.3	100.0
JP	視覚	中立	69.1	6.5	24.5	100.0
		喜び	8.2	76.9	14.9	100.0
		失望	20.7	6.5	72.8	100.0
	聴覚	中立	71.6	12.0	16.4	100.0
		喜び	7.6	82.1	10.3	100.0
		失望	20.5	18.6	60.9	100.0

上記の表3を見ると、次のような特徴が見えてくる。

一つ目は、中立と喜びの意図を持つ発話は、他の感情への判断とはっきり区別される結果が得られた。

二つ目は、失望の意図を持つ発話は、視覚資料と聴覚資料を使った学習者群共に中立と喜びと判断される例が20%弱くらい根強く残っており、その一致率が59.1%~72.8%の範囲で現れ、他の感情表現より誤解が生じる可能性が高いことが分かった。

2. 考察

本稿では、韓国語の文末イントネーションの指導方法における視覚資料と聴覚資料を使った際の教育効果を量的検証することを目標としていた。しかし、各感情別の発話のピッチパターンが非常に多岐にわたるパターンで現れていることから教育、指導に提示できるモデル資料の選定作業に多くの手間が取られた。それに、これまでの先行研究で行ってきた5つの感情表現から教育、指導にふさわしい枠組みへの修正が必要であることを主張したが、その当為性に関しては今後多くの議論を期待したい。最後に本研究では、視覚資料と聴覚資料を使った学習者間のデータを取ったが、学習者個人のバラつきが激しい特徴に鑑みると、学習者内の資料別効果を検証する必要があった。これらは今後の課題にしたい。

参考文献

- 金田一春彦(1967) 「日本語のアクセントの特質」 『日本語音韻の研究』, 東京堂出版, pp.198-230
- 崔壯源(2016) 「韓国語母語話者の感情別イントネーション—「아 그래요」を中心に—」, 『韓国語教育研究』 (第 6号), 日本韓国語教育学会, p 130-150
- 崔壯源(2017a) 「일본인 한국어 학습자의 [아, 그래요] 발화의 감정별 억양-한국어 모어화자의 청각 평가와 음향분석 결과를 중심으로-」, 국제 한국어 교육 대회, 경희대학교, (2017.08.05~2017.08.06) 제 27 차 대회, p485-496
- 崔壯源(2017b) 「영어권 한국어 학습자의 한국어 감정별 억양—「아 그래요」를 중심으로—」, 『韓国語教育研究』 (第 7号), 日本韓国語教育学会
- 平田悦郎・鮎澤孝子・中川千恵子・小高京子(1997) 「東京語アクセント聞き取りテスト」 縦断調査結果報告—韻律教育を実施した場合の観察報告— 『21 世紀の日本語音声教育に向けて』 文部省科学研究費重点領域研究『国際社会における日本語についての総合的研究』(課題番号: 08 NP0701, 研究代表 水谷修)3 班平成 8 年度研究成果報告書, pp.61-72

(国際教養大学・教養学部)

jpallanche@gmail.com

韓国語教育研究 第8号

ISSN 2186-2044

2018年9月10日印刷

2018年9月15日発行

発行 日本韓国語教育学会
〒577-8052 大阪府東大阪市小若江3-4-1
近畿大学 国際学部 酒匂康裕 研究室気付
e-mail: jaklemejiro@gmail.com

編集 韓国語教育研究編集委員会
(委員長 / 金世徳 kim0120sdjp@yahoo.co.jp)

印刷 株式会社 仙台共同印刷
〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区
日の出町二丁目4-2
TEL 022(236)7161(代)/FAX 022(236)7163